

— 三高生が躍動する暑い! 熱い! 夏が開幕! ~ご期待ください—



MITOYA 2016 夏物語

Go! ボート競技のスタートは“Attention Go!”

2016 情熱疾走 中国総体 ボート競技

7/28(木)~8/1(月)

競技は29日(金)から、7頁に関連記事あり

雲南・奥出雲地区5校(三刀屋・掛合・大東・横田・飯南)の高校生がインターハイボート競技の大会運営をお手伝いします。全国から来県する皆様に、島根に来て良かったと思ってもらえるよう頑張ります。

— 高校生の全国大会にご声援をお願いします —



- ◇開会式 7月28日(木) 16時
三刀屋文化体育館アスパル
- ◇競技 7月29日(金)~8月1日(月)
- ◇会場 さくらおろち湖ボートコース
(尾原ダム湖/雲南市・奥出雲町)

壮行式7/8



MITOYA

島根三刀屋
県立高校

蒼雲

学校だより
第109号

【発行所】
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【印刷所】
有限会社木次印刷
〒699-1312
雲南市木次町山方
630-5
TEL: 0854-42-8133
FAX: 0854-42-8155



←7/30~8/2

<p>祝</p> <p>▼水泳 (社会体育) 吉川航輝(2年) 男子百m・二百m平泳ぎ</p> <p>中国高校選手権大会出場(広島市)</p> <p>7/22~24</p>	<p>祝</p> <p>▼美術部 高野寛子・茂富楓・金築由依(3年) (高知県高知市)</p> <p>第25回全国高等学校漫画選手権大会出場</p> <p>8/6~7</p>	<p>祝</p> <p>▼写真部 小池ななみ(3年)</p> <p>全国高等学校総合文化祭出場</p> <p>(広島県広島市)</p>	<p>祝</p> <p>▼書道部 黒目 麻友(3年)</p> <p>全国高等学校総合文化祭出場</p> <p>(広島県広島市)</p>	<p>祝</p> <p>▼美術部 門脇宥紀菜(3年)</p> <p>全国高等学校総合文化祭出場</p> <p>全国大会W出場</p>	<p>祝</p> <p>▼少林寺拳法 (社会体育) 門脇宥紀菜(3年) 女子単独演武</p> <p>インターハイ出場(岡山県美作市)</p> <p>↑7/28~31</p>	<p>祝</p> <p>▼女子ソフトボール部 インターハイ出場(広島県尾道市)</p> <p>1回戦: 対文徳(熊本)</p>
---	--	--	--	---	---	--

↑全国高等学校総合文化祭は7/30~8/3

↑7/28~31

私たちに続け未来の三高生!! SANKOの礼で迎えます!!

島根県立三刀屋高等学校 オープンキャンパス

8/23 (火) 午後

- 13:00~13:20 受付(大講義室)
- 13:20~14:05 全体説明
- 14:15~14:45 授業参観・校舎見学
- 14:50~15:30 生徒による学校紹介(グループ別)
- 15:35~16:20 部活動見学・寮見学
- 16:20~16:30 アンケート記入



→美術部作成の案内チラシ

OPEN CAMPUS 2016

8/23 (火) 13:00~

三刀屋高校へ行ってみよう

新着情報の多さでは県内高校トップクラスの三高HPを開き、三高通になりましょう

今号の記事は7月15日分までです



放送

放送コンテスト県大会

(6/15、ステイックビル) 5月の松江地区予選を経て、6月15日(水)に松江ステイックビルで開催された標記県大会のアナウンス部門に高見ひのめさん(2年)、朗読部門に小澤星斗さん(2年)が出場したが、ともに決勝進出はならなかった。近年は石見部の高校の活躍が目覚ましく、

その発表を目にすることも勉強になった。県大会に出場した2名はまだ2年生。来年こそ、夢のNHKホール(NHK全国高校放送コンテスト)進出目指して精進してもらいたい。

自然科学

益田サイエンススタウン2016

(7/2、グラントワ) 6月に三瓶で開催された1泊2日の「実験観察研修会」に続き、今月初めには益田市グラントワで開催された恒例の「益田さいえんすたうん」に参加した。文科省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受ける益田高校が主催し、県内の理系高校生が集うこの時期の恒例イベントで、初日は期末試験と重なったため、本校は2日目の7月2日に日帰りでの参加となった。大ホールステージで開催された「高校生科学チャレンジ(ゆっくり落とそう)」ではペットボトル本体に落下スピードを抑える羽根状のモノを付け、高さ6畳の高所から落とす競技にも参加した。最後は、金星探査機「あかつき」のプロジェクトマネージャーをつとめたJAXA宇宙科学研究所教授の中村正人氏の講演を聴講し、短時間ながらも刺激の多い研修参加となった。

陸上

6/19

中国高校陸上選手権

インターハイ予選を兼ねた中国高校選手権が6月19日、岡山県陸上競技場で開催され、女子砲丸投に高野彩香さん(1年)が出場した。大雨の中で、県総体の記録を上回ることができなかったが、まだ1年生。今後の飛躍を期待したい。

剣道

6/18

中国高校剣道選手権

陸上と同じく岡山市(ジツプアリーナ岡山)で開催された剣道の中国選手権大会男子個人戦に安部勝久さん(3年)が出場し、各県の精鋭が集う大会で見事初戦を突破した。4月の県予選では4回戦まで進出してベスト16入りを果たしたものの、6月の県総体

延長戦の末、初戦突破

では初戦で苦杯を喫した。その分、今大会にかける思いは強く、粘った末の延長戦で一本勝ちを納めた。最後は3年生男子部員2名での活動で練習環境は厳しかったが、1年次からOB外部講師の飯石一夫先生の指導を受け、保護者・地域の皆様にも支えられての選手生活を終えた。

JRC

事務局長として3年生部員が奔走

そして引退しお疲れ様でした 島根県高校青少年赤十字メンバー春季協議会が出雲市民会館で開催され、本校JRC部員は県の事務局長として会の運営に大きく貢献した。部長の板持乃野可さん(3年)が生徒委員長として約140

名の参加者を前にして開会の挨拶。また、加本奈央さん(3年)、清水水佳さん(3年)が落ち着いて進行役をつとめた。午前中の講演に続き、午後からは、3月に山梨県で開催された「青少年赤十字スタディゼンター」に島根県代表として参加した板持さんを中心に、部員が協力して「ふれあい癒しハンドケアボランティア」について伝達講習を行い(写真)、会場の参加者は隣の生徒とペアになって熱心に実践練習に取り組んだ。



3年生部員は今回の協議会で引退し、下級生がいらないために休部状態となる。JRC部では、新入部員を期待している。

写真

春季写真コンクール(東部講評会)

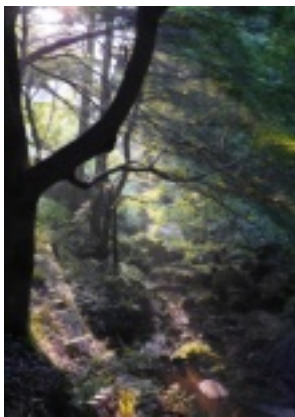
(6/14、松江工業高校)



講師(手前)から出品作品について講評を受ける本校部員。

引き算の芸術

コンクールには一人5点以内、本校からは写真部員12名

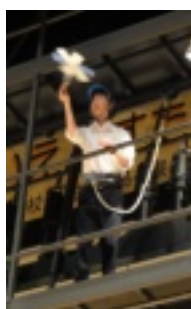


『ものけの森』松崎愛己(1年)

が計55点を出品して18点が入選。内、6点が特選に選ばれ、年末に開催される県高校写真展への応募資格を得た。当日は、特選となった作品を出し、二人の外部講師から一枚一枚といねいに講評をいただいた。さらに午後の講習会では、講師の先生から参加者全員が一人ずつ講師の先生からアドバイスを受け、

『写真は引き算の芸術で』す。特に、写真の外回りに余分なものが写り込まないように注意してください」との助言もあつた。今後の活動に役立つ有意義な一日となった。本校の特選6点中3点は1年生の作品で、今後の活動が期待される。

《特選入賞者》
小池ななみ(3年)
廣戸 愛永(3年)
加本 奈央(3年)
松崎 愛己(1年)
石橋 冬也(1年)
山根 奈子(1年)



命綱を付けた高所から、ペットボトルをゆっくりと落下させる競技。

《予選テーマ》 「情報流出」又は「〇〇ロス」



三高のテーマは「耳ロス」
【作品介绍】芳一が和尚のテレパシーに心の叫びを上げるという内容。小泉八雲の怪談にも取り上げられた「耳無し芳一」やムンクの「叫び」をコミカルに描き、さらに「耳」と「イヤ〜」をかけたハイセンスなダジャレを取り入れた。(こんな作品を考え付いたのはダレジャヤ?)

祝
 応募総数324作品／本選出場33校の激戦突破
イア〜漫画甲子園本選
初出場決定しちゃいました!

8/6~7
 高知市

雲南市社会福祉協議会からの誘いで実現(これもご縁です)



園児とのふれあいin三刀屋保育所
放課後2名ずつ交替で(16名参加)



1学期末試験終了後の今月4日から、火曜日を除く毎日夕方4時半からの1時間、三高生が交代で三刀屋保育所でボランティア活動を行っている(園児と楽しく遊んでいます)。

全県で100台



折り畳み式です

島根電工株式会社様より車椅子2台をご寄贈頂きました
 ※先月、島根電工の荒木恭司社長が「不思議な会社」に不思議な「不思議な会社」(あき出版)を発行。不況業種のローカル企業が急成長している「必然の不思議」の秘密を、トップ自らが語っている。

美術

「第25回まんが甲子園」予選

2年連続チャレンジ



挑戦式題



この一年、三高生のチャレンジ拡がり、はじめての世界に飛び込んでいく姿を度々取材した。新しい世界への挑戦は何かと手間暇かかるが、視野を拡げモノの見方にも幅が生まれる。何かに挑戦する三高の新人さんを応援しよう。

文芸

「松山俳句甲子園」島根県予選

記念すべき第1回大会でした

最優秀句

猫の子よ開かぬ眼で何をみる

影山朋未さん(3年)

俳句の全国大会「松山俳句甲子園」の島根県予選が6月11日(土)にビッグハート出雲で行われ、文芸部員5名が出場した。

三刀屋高校と平田高校との間で刀屋高校が3対0で圧勝。迎えた最終第3試合の兼題は「葎」。三刀屋は先鋒でとり、中堅ではとられ、息詰まる熱戦の末、大将戦では一歩及ばず平田高校に軍配が上がった。

影山朋未さん(3年)の「猫の子よ開かぬ眼(まなこ)で何をみる」が選ばれた。

正岡子規や高浜虚子など著名な俳人を輩出した愛媛県松山市で開かれる「俳句甲子園」の島根県予選が行われたのは今回が初めてで、遠路松山からも来賓を迎え、決定戦は三

対戦は5人1組のチーム戦で、あらかじめ与えられていた三つの兼題を挿入して作った句をもとにディベートも行ったの鋭さで勝敗を競う。第一試合、兼題「水温む」では善戦及ばず0対3。第2試合では兼題「猫の子」で秀句を揃

なお、最優秀句には本校の影山朋未さん(3年)の「猫の子よ開かぬ眼(まなこ)で何をみる」が選ばれた。



高校生英語セミナー “CHESS2016”

日本語禁止の英会話セミナー

県教委が主催する標記セミナーが7月10日(日)、JR大田市駅前の「あすてらす」で開催され、本校からはESS部の二人が参加した。小グループに別れ、すべて英語による会話・討論・ゲーム等をALTの先生と一緒に楽しんだ。



発的な体験の場ではなく、「続けるボランティア」の場となるよう期待している。(参加生徒はクタクタになりながらも、心地よい疲労感と充実感に包まれているようです。編集長も、写真を撮るわずか10分ほどの間にヘトヘト状態に！右の写真は子どもたちに絵本を読む2年女子生徒)

ESS

出雲市斐川町の荒神谷史跡公園の池と同じ古代ハスが、本校中庭の池で先月末から花を咲かせています。戦後、千葉市の二千年以上昔の遺跡から出土したハスの実から、大賀一郎博士が発芽・開花させた「大賀ハス」です。

イケメンの古代ハス



夏の花2題

『ウイニンくん』



→家庭クラブ員がマリーゴールド40鉢を鉢植え

マリーゴールド

家庭クラブ

《ボート競技》インターハイ生徒活動2題

6月22日の放課後、インターハイ

ボート競技の雲南・奥出雲地区生徒活動の一環として、家庭クラブ(1年荒金単人会長)が会場を飾るマリーゴールドの鉢植えを行った。雲南地区の高校5校が分担して育て、大会本番をめざして日々水遣り続ける。

書道 美術

期末試験最終日の午後、ボート競技の会場に掲出される立て看板19枚に、書道部員が各種案内表示を毛筆で制作した。



↑ケーブルテレビ局雲南夢ネットの取材も受けました

ボート競技の雲南市実行委員会から依頼された計19枚の看板に、普段とは違って筆にペンキをつけて書いたもので、最初は筆のすべりに違和感を感じつつも、書道講師の長羅先生の指導を受けながら2時間ほどで



仕上げていった。また美術部は、各都道府県ごとに用意された応援のぼり旗に、生徒会執行部が考えた応援メッセージを描いた。雲南地区の各校が分担し、本校は15本を制作した。

長崎・広島・雲南



▼雲南市が主催する「永井隆平和賞」も今年で26回目。8月の原爆の日を前に、本校では毎年この時期に2年生が現代文の授業を通して「愛」と「平和」を主題とする小論文に向かう。戦争を知らない世代でも、ふるさと雲南や島根を愛する気持ちで平和への思いを綴る▼政治は困難な状況の中こそ、市民を導く崇高な夢

を語って欲しい。リンカーンは「未完の事業に身をささげるのが生き残った人々の責務だ」との言葉も含め、ゲティズバーグでのわずか2分間の演説で崇高な民主政治を説いた。そして、リンカーンを尊敬する現代の米国のリーダーは5月27日、勇気をもって核廃絶に向けた歴史的な声を広島で発した▼あの日、国民の多くは彼の姿を好感をもって迎えたが、EU離脱に舵を切る英国の国民投票が周辺各国のナショナリズムを刺激し、早くもあの日の熱い空気が薄らいでいる感がする。国

のリーダー達だけに任せることなく、今、市民一人ひとりが思いを繋いでいかななくてはならない▼永井隆博士の「如己愛人」の心を一層重く受け止めたい。本校JRC部の3年生は6月の春季協議会をもって部活動を引退したが、今年も8月6日を前に千羽鶴を広島に送り、平和への祈りに思いを繋ぐ。



「平和を!...」誰もこう願っています。だれもこう話合っています。けれども、大きな声で叫ぶことは政治家に任せるよりほかに手がないと、あきらめているのではありませんまいか?人の目につく運動は社会活動家という偉い人々がしてくるだろうと見物しているのではないのでしょうか。(中略)「平和を!...」この願いをいちばん強く叫びたがっているのは、将軍でもなく、社会運動家でもなく、政治家でもなく、じつに私たち町民なのです。

つながろう三高
つながろう雲南

如己愛人

法は最小限の道徳
1998年の三刀屋天満宮夏祭りと同じ7月25日、日



本中が異様な興奮に包まれた。「ウインドウズ98」日本語版が発売されたのだ。一般家庭にもパソコンが急速に普及するきっかけとなった。あれからまだ20年も経っていないことが驚きだ▼宇宙開発から日常生活までIT技術が難なく浸透し、大人も子どもも沢山の「はじめて」を経験しながら受け入れた▼しかし、IT技術は生活を豊かに便利にする一方で、扱いが厄介な代物ともなっており、扱いは国家の安全保障をも揺るがすようになった。使うのは人間であり、高い倫理観が求められる▼政治の世界も同様だ。政治資金規正法は収支をハッキリさせることを求めるものの、使途についてはザル法と言える実態を作ってきた。それは政治活動に最大限の自由度を保障したためであり、だからこそ、また政治家には高い倫理観が求められる。「不適切だったが違法とは言えない」との不透明な言葉が繰り返された今年だが、違法ではないからと開き直るような姿は、夢を語ろうとする若者の生き方や政治的関心を阻害する恐れがある▼高校の公民科の授業で、「ドイツの法学者イェリネックの「法は最低(必要最小限)の道徳」との言葉を学ぶ。法は拘束力・強制力があって意味をなし、自由を束縛する一面も有す。だからこそ法は最小限度のものでなくてはならない。よって、法律だけでは物事を解決できない。秩序をもたらすには、法律より広範な人間のモラル・常識・理性が必要だということを高校生も理解できる。大人も自戒したい。(編集長記)



三高新時代への胎動

地域とともに 第23回

地元就職への働きかけ (企業見学&案内)

1 **NEW!** 雲南市産業推進課作成

雲南市内企業紹介サイト「Work in Unnan」

<http://co-unnan.jp/work/index.php>

上級学校に在学中の皆さんも必見!

雲南市の対象地域では、予約のあった自宅から決められた目的地(商業施設、医療・公共施設等)の間を運行する。対象地域内での乗降場所は自宅と、公共的な施設とバス停のみ。



←雲南市でも運行されるデマンド型乗合タクシー。予約制で料金(1回)300円。

仮に木次線存続問題が浮上しても、解決の糸口はどんな形にせよ、一にも二にも利用者増による収益改善だ。沿線自治体による赤字補てんは将来世代へのツケを残し、抜本的解決には程遠い。人口減の中で、単純に通勤・通学と高齢者の利用拡大を求めても限界がある。活路は、現実的に観光利用客の取り込みではないだろうか▼平成元年、JR山陰本線の嵯峨(現在の嵯峨嵐山駅)〜馬堀駅間が電化・複線化のため新線に切替えられ、桂川・保津川沿いを走っていた旧線は廃線となっ

た。あつと言つ間に線路が錆び、草が生い茂った旧線沿いの住民は危機感を持って立ち上がった。当時の様子はテレビ番組『カンブリア宮殿』で「廃止された路線を、観光鉄道へ…人が集まらない所に、人を集める!!」と題して紹介された。今では京都嵯峨野、保津峡の四季を楽しむトロッコ列車片道25分の旅は、年間百万人の観光客を呼び込んでいられる▼置かれた条件は随分と違うものの、一人が集まらない所に、人を集める!!と危機感をもって立ち上がり、当初は3年間持つかどうかと危惧した関係者の取り組みの姿勢は、木次線の現状と将来を憂える私達に示唆を与えるものだ。危機意識と具体的な取り組みが、もともとあつた雲南

地域の資源活用につながり、域活性化につながるものと期待したい。観光版デマンド交通は? 廃線となつた地域では、代替バスを運行することが多い。しかし、交通弱者のために地域の隅々を巡るバスの利用は、長時間の乗車を強いられる敬遠され、実際にはガラガラ運行となつて自治体負担を大きくする。高齢者にとつては、そもそもバス停まで歩くのも辛く、外出を控えることが多くなる▼そんな中で登場したのがデマンド型乗合タクシーだ。運行形態は地域によって若干の違いはあるものの、予約によって玄関先から目的地まで運んでもらえる。雲南市では一回300円で利用できる(だんだんタクシー)。全

国の中山間地では、廃業を検討していたタクシー会社が息を吹き返し、バス運行に比べて自治体負担の大幅軽減につながつた事例が散見される。岡山県美咲町の事例を紹介した『中国新聞』の記事(2/20)の中で、デマンド型福祉タクシーを利用した高齢者の「家でアイスクリームが食べられる」との言葉が忘れられない▼そして今、福祉目的以外にも、木次線のトロッコ列車や通常運行の列車での降車駅から、予約によってデマンド型タクシーに乗り換え、雲南地方の名所を回る旅を商品化できないかと考える。観光版デマンド交通だ。言いたい放題だが、こうした具体案を出し合う中で、現実的妙案が登場することと願っている。

未来をみつめる

木次線今昔物語第3回 デマンド交通(小型乗合タクシー)を活用した観光客増の可能性は?

た。あつと言つ間に線路が錆び、草が生い茂った旧線沿いの住民は危機感を持って立ち上がった。当時の様子はテレビ番組『カンブリア宮殿』で「廃止された路線を、観光鉄道へ…人が集まらない所に、人を集める!!」と題して紹介された。今では京都嵯峨野、保津峡の四季を楽しむトロッコ列車片道25分の旅は、年間百万人の観光客を呼び込んでいられる▼置かれた条件は随分と違うものの、一人が集まらない所に、人を集める!!と危機感をもって立ち上がり、当初は3年間持つかどうかと危惧した関係者の取り組みの姿勢は、木次線の現状と将来を憂える私達に示唆を与えるものだ。危機意識と具体的な取り組みが、もともとあつた雲南

地域の資源活用につながり、域活性化につながるものと期待したい。観光版デマンド交通は? 廃線となつた地域では、代替バスを運行することが多い。しかし、交通弱者のために地域の隅々を巡るバスの利用は、長時間の乗車を強いられる敬遠され、実際にはガラガラ運行となつて自治体負担を大きくする。高齢者にとつては、そもそもバス停まで歩くのも辛く、外出を控えることが多くなる▼そんな中で登場したのがデマンド型乗合タクシーだ。運行形態は地域によって若干の違いはあるものの、予約によって玄関先から目的地まで運んでもらえる。雲南市では一回300円で利用できる(だんだんタクシー)。全

国の中山間地では、廃業を検討していたタクシー会社が息を吹き返し、バス運行に比べて自治体負担の大幅軽減につながつた事例が散見される。岡山県美咲町の事例を紹介した『中国新聞』の記事(2/20)の中で、デマンド型福祉タクシーを利用した高齢者の「家でアイスクリームが食べられる」との言葉が忘れられない▼そして今、福祉目的以外にも、木次線のトロッコ列車や通常運行の列車での降車駅から、予約によってデマンド型タクシーに乗り換え、雲南地方の名所を回る旅を商品化できないかと考える。観光版デマンド交通だ。言いたい放題だが、こうした具体案を出し合う中で、現実的妙案が登場することと願っている。

2 雲南管内企業見学 7/8



求人受付が解禁となつて間もない今月8日、3年生の民間就職希望者が、雲南市内5つの事業所を巡って受験先を決定するための参考とした。

3 県教委・県商工労働部の働きかけ

東部地区大学等進学を希望する高校生・保護者対象の合同企業セミナー

7/18 大学卒業者等を受け入れる地元企業(当日参加予定65社)から、島根で働くことの魅力などについて話を聞く機会を提供し、島根に素晴らしい企業がたくさんあることを知り、ふるさと島根への貢献意欲を高めることが目的。

4 ふるさと島根定住財団の働きかけ 高校生ジョブフェア

7/21 13:00~15:00
くにびきメッセ大展示場(松江市)

参加企業 約50社
内容 ① ガイダンス
② 集団説明(1回20分程度、4回実施)
・ブースに分かれ、採用選考につながらない範囲で、事業内容や仕事内容などの説明、質疑応答



<http://advance.teiju.or.jp>

島根県内の就職をサポートします!

5 雲南市健康福祉部の働きかけ

8/2 三高生対象の「福祉職場訪問」

高校生に福祉の仕事と職場を知ってもらおうと雲南市が計画した。当日は、特別養護老人ホーム・通所介護施設・就労継続支援事業所を訪問する予定とのこと(介護人材確保対策事業)。

(本校では)高校からの地元就職率は高いが、上級学校進学者の地元就職率を高める環境づくりと働きかけが急務とも感じられる。まずは「しまね学生登録」もその一助としてもらいたい。(本紙3月発行第104号コラム欄より抜粋)

進路講演会 2 題

1

6/10 2年生対象「進路目標実現に向けてなすべきこと」
 6/11 保護者対象「備えあれば憂いなし」〜これからの時代を生き抜くために〜

▼講師 村上育朗氏
 教育未来研究会「そうぞう」

今年も教育未来研究会「そうぞう」の村上育朗先生をお招きしての講演会では、人生には年代毎の『旬』があること、高校時代の『旬』とは何かを考え実践することが強調され、当たり前前（の）ことが当たり前前にできるようになる「凡事徹底」が説かれた。

その上で、学習と部活動の両立をめざし、学力・体力・気力の「三力（みりよく）」



中高生の！幸雲南塾2016



5月テーマ『1年間の学生生活の目標設計&大学生による学習指導』
 6月テーマ『定期テスト対策&将来の選択肢、どう決断した?』

昨年度までの月一回の土曜ワークショップ「自分をつくる楽校」が、今年度から「中高生の！幸雲南塾」へと名称変更して再スタートした。

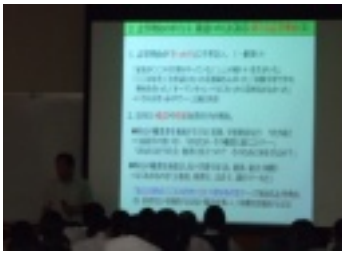
大学生の協力を得ながら、学校生活の目標づくりと学習に取り組み、大学生や社会人と一緒に、中高生が大人になる時に必要な力（学力、課題解決力、創造力など）を育む場を月2回程度の予定で開催することとしている（雲南市HPより）。

インターネットで「中高生の！幸雲南塾」と検索すると、5月から毎月開催日の様子が紹介されており、参加生徒の感想も載っている。原則9時から17時までだが、何月からでも、参加可能な時間帯だけでもOK。ぜひ、参加を検討してもらいたい。

2

7/14 3年生対象 「三刀屋高生のための進路ガイダンス」

▼講師/山崎裕正氏
 (香川大学准教授)



画面は「落ちる志望理由(1)」

を身につけることの大切さ、勉強をするとなりをしたいかが分かる（勉強しないと何をしたいかが分からない）ことを力説された。今後の生活で心がけることを、さらに7つの観点でお話いただいた。

入試対策講座」等をテーマに助言をいただいた。

志望理由書については、「〇〇がきっかけで△△を指すようになったと、きっかけだけを書いても仕方がない。これから何を学び、それをいかに社会貢献に結び付けていくかを考えることが大切」と説かれたように、決して小手先の受験指導の話をされたわけではない。進学か就職かにかかわらず、今回のお話は未来を見据えた「生き方・学び方指導」でもあった。

球技大会

7/6



バレーボールでは、男子優勝の3年2組と教員チームが激戦を展開

華道

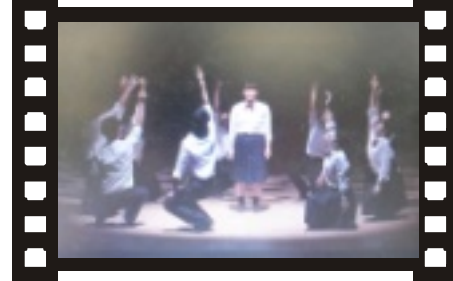
7/7



3年部員2名が、講師の安部治美先生を通じて池坊お免状をいただいた

演劇

7/9



演劇部門を代表して三刀屋高校が発表しました

松江市のプラバホールで開催された第11回島根県高等学校文化フェスティバルで、演劇部1、2年生22名が文芸作品（詩）の朗読劇を披露した。島根県高文連文芸コンクールで入選した他校生徒の詩に、演劇調のパフォーマンスをコラボさせる斬新なステージを披露した。

1年生部員15名にとつては、デビューの舞台ともなった。

芸術鑑賞

世界的ピアニスト/仲道郁代 ピアノコンサート 感動の全曲ショパン



ショパンの心臓を安置する教会の柱

今年の芸術鑑賞は、加茂文化ホールラメールを会場に、世界的ピアニスト仲道郁代さんの演奏会となった。ピアノのミニコンサートを鑑賞したことのある人は少なくないだろうが、2時間のフルコンサートは案外経験がなく、しかも全曲ショパンで聞き慣れた曲も多く、心に染み入るコンサートとなった。

演奏の合間にはショパンの生涯に触れ、時代背景やショパンがどんな気持ちでこめて作曲したかを分かりやすく、かつ熱く語っていただいた。

世界史の授業では…
 (熱田美智子教諭)

ショパンは故郷への想いが強く、亡くなった際は心臓がポーランドの教会へ届けられたという話も紹介された。世界史担当の熱田美智子教諭は昨年ポーランドの首都ワルシャワを旅行しており、後日の世界史の授業で、その聖十字架教会や市内の随処で見られるショパン関係の名所を紹介した。

日	曜	学校行事等	部活等	
21	木	救急法講習会(1年3クラス)	1・2年保護者面談 19~22	
22	金	救急法講習会(1年2クラス)	3年三者面談 19~28	
23	土		演劇	
24	日		演劇	
25	月	PTA三刀屋地区パトロール 3年小論模試	7月	
26	火	終業式(午後) 学園祭分団集会		
27	水	3年夏期補習①		全国総体ボート競技準備
28	木	3年夏期補習②		全国総体ボート競技開会式
29	金	3年夏期補習③	全国総体ボート競技、~8/1	
30	土	3年M模試	全国総体(7月ホール、~8/2)	
31	日		全国総文祭~8/3美術写真書道	

日	曜	学校行事等	部活等
1	月	3年集中学習日①	全国総体ボート競技最終日
2	火	3年集中学習日②	8月
3	水	3年集中学習日③	
4	木	3年集中学習日④	
5	金	3年集中学習日⑤	
6	土		
7	日		
8	月		
9	火	3年全統M模試 就職公務員ガイダンス 閉寮	
10	水	3年全統M模試・公務員模試 SPI対策テスト	文芸
11	木	山の目	文芸
12	金		
13	土		
14	日		
15	月		
16	火		
17	水	開寮	
18	木		
19	金	始業式、課題テスト (6限授業)	
20	土		野球
21	日		野球
22	月	1・2年第2回カデボート	
23	火	第1回オープンキャンパス	
24	水	学園祭準備(午後)	
25	木	学園祭準備(午後) 人権・同和教育SHR 全国高P連千葉大会(~26)	
26	金	学園祭準備(午後)	
27	土	出校日(月曜日の授業) 学園祭準備(午後)	
28	日	1・2年全統記述(希望者)	
29	月	8/27の代休日	
30	火	学園祭準備(午後)	
31	水	学園祭準備(全日)	

7月11日にラメールで開催された中高生の「雲南バンドフェスティバル」のステージで、雲南5校の各代表生徒がボート競技の開催をPR。



〈ボート競技応援の皆様へ〉

さくろおろち湖でのボート競技の応援に関する注意事項を、大会HPに掲載しております。特に地元の皆様には次の点にご留意ください。

- 会場近くに無料駐車場を準備します。現地で案内する一般駐車場をご利用ください。駐車可能台数に限りがあります。乗り合わせするなど台数の削減にご協力ください。
- 熱中症対策のために、特に飲み物の持参をお願いします。
- コース上に架かるスサノオ大橋の上からの観戦・応援・写真撮影は禁止させていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。



お知らせ 応援をお願いします！
お越しく下さい！

第98回全国高等学校野球選手権島根大会

野球

松江球場

7/16日(土)2回戦 対江津工業
19日(火)3回戦 対浜田と

松江商業の勝者

21日(木)準々決勝 3年生全員応援
23日(土) 準決勝 全校応援
24日(日) 決勝 全校応援



「三刀屋高校演劇部・青春Conflict!」

生徒創作劇 脚本:深田愛佳(3年)

入場無料



会場:チェリヴァホール

演劇部自主公演/3年生引退公演

7/23(土)18時~
24(日)10時~
14時~

「青春はー難しい！ 苦しい！ 楽しい!!」
脚本・演出から案内チラシの作成、会場施設との渉外等、企画運営のすべてを生徒が行う恒例の自主公演です。お誘いあわせの上でご来場ください。

演劇

チェリヴァシアターLIVE

吹奏楽

第57回全日本吹奏楽コンクール
島根県大会〈高校Aの部〉



8/7(日) グラントワ(益田市)


▼入場料/高校生千円 大人千五百円
(県民会館等でも販売していますが、完売が予想されます。早めにご購入ください。)

三刀屋高等学校 学園祭

1
ご案内



～それぞれの勝利を掴むために～

- 9/2 (金) 文化祭 1日目 三刀屋文化体育館アスパル
- 9/3 (土) 文化祭 2日目 三刀屋高校 
- 9/4 (日) 体育祭 三刀屋高校グラウンド

P T A 模擬店(9/3)も楽しみです
学園祭前後の出校日と代休日にご注意ください
[学園祭後の9/5(月)、9/6(火)が代休日となります]

お知らせとお願い **雲南に新風を!**
鈴

2 鉄と青銅の風鈴で雲南を演出します



雲南市を愛する皆様にご協力をお願いします

1996年に加茂岩倉遺跡から全国最多の39個の銅鐸が出土して今年で20年。また、今春には雲南市・奥出雲町・安来市の3市町で構成する鉄の道文化圏推進協議会が認定申請した「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」が日本遺産に登録されました。そんな2016年を記念し、今年の三高祭では「鉄と青銅の風鈴」を三刀屋の風に委ね、雲南に癒しの音(ね)をお届けします。

そこで地域の皆様にご協力をお願いいたします。ご自宅にある鉄の風鈴や青銅製の風鈴を寄贈またはお貸しいただけないでしょうか。ご協力いただける場合は、8月22日(月)～31日(水)の間に、三刀屋高校事務室へご持参いただくか、電話(0854-45-2721)でお問合せをお願いします。

3 P T A 環境美化ボランティア活動へのご協力をお願いします

今年もP T A環境美化ボランティア活動へのご協力をお願いします。学園祭を前にした8月21日(日)に実施の予定です。今後、参加の取りまとめは各支部単位でお願いすることとしております。ご多忙のところを恐縮ですが、よろしく願い申し上げます。

読後記



さんこう 三高92年物語

第26回 くにびき国体(昭和57年)



ソフトボール少年男子 第2位
バスケットボール少年男子 第3位

決勝戦に臨む少年男子島根



本シリーズは本校の『十年史』を参照することが多いが、次の『追録の十年史(昭和50～59年度)』の中で、一際輝いた夢の舞台が昭和53年夏の野球部の甲子園初出場と、昭和57年(1982年)の島根国体

(くにびき国体)だった。島根国体での本校生の活躍として特筆すべき一人に、バスケットボール少年男子、島根選抜の大坂俊二選手がいた。3回戦で足を負傷した次の準々決勝では残り2分で5点リードされる中、最後は彼の2本のフィールドスロー等で逆転し、準決勝進出の立役者となった。準決勝では強豪秋田にはかなわなかったが、堂々の第3位入賞に輝いた。また、ソフトボール少年男子では、本校の5名を含む島根選抜が快進撃。三刀屋のエース植木敏之選手が2回戦でノーヒットノーランを達成すると、準決勝でも大阪府を完封。決勝では力尽きたが、見事準優勝を飾った。一方、

本校から4名が島根選抜入りしたソフトボール少年女子は、北海道との1回戦で1点を先取し、そのまま押し切るかに見えたが、7回裏に追いつかれた。そしてほぼ2試合分を戦った13回の裏、四球と二つの内野安打が絡んで得点を許し、初戦で涙をのむ結果となった。▼ソフトボールは国体開催前年の春から、ほとんど毎週2泊3日の合同合宿が続き、その大半は昭和54年にテニスコートの横に完成した本校の合宿所が利用された。また、男女ともに関東以西の強豪と目されるチームのほとんど全てに胸を借りる遠征が続いた。男子チームコーチの一人瀬隆男教師(当時)は後に述べた。

「…それまでの文字どおり汗と涙の猛練習に耐えた選手たちの努力があったからこそです。…一週間にも満たない開催期間だけのものではありませんでした。むしろ鮮烈な記憶は、それまでの準備期間中のことに多いというのが私の実感です。」
▼国体というビッグイベントは単なるお祭り騒ぎではなかった。準備・過程・本番のいたる所に苦労があり、感謝があり感動があった。選手だけではなく、民泊をはじめ、かかわる県民全てが歓喜感動した大会となった。今夏、地元で開催されるインターハイボート競技も、関係者すべての記憶に残る大会となるようサポートしたい。

学校ホームページを昨年度にリニューアルしたものの、操作不慣れにより更新が十分ではありませんでしたが、今年度は7月上旬までに、すでに百件を超える新着情報・お知らせを発信しています。本紙『蒼雲』は、他校の学校便りに比べれば内容は盛り沢山と自負しています。が、速報性ではホームページにはかないません。ぜひ三刀屋高校ホームページをご覧ください。



三高ホームページ QRコード

http://三高情報.怒涛のドット.満載「蒼雲」